副　　本

第３回 吉川市総合教育会議録

平成２８年６月３０日（木）

平成２８年６月３０日　第３回 吉川市総合教育会議

開会の日時	平成２８年６月３０日　午後５時００分
閉会の日時	平成２８年６月３０日　午後６時３０分
会議開催の場所	吉川市役所第２庁舎２０１会議室

会議に出席した構成員の氏名

吉川市長　中原　恵人

吉川市教育委員会	教育長	染谷　行宏
	教育長職務代理者	山田　陽一
	教育委員	神田　美栄子
	教育委員	西山　祐照
	教育委員	関根　二三代

構成員以外の出席した者の職・氏名

〇市長部局の出席者

政策室長	岡田　忠篤
政策室主幹	吉田　誠
政策室副主幹	島村　善和
政策室主査	宮田　匡寿

〇教育委員会事務局の出席者

教育部長	篠田　好充
教育部副部長兼教育総務課長	戸張　悦男
教育部副部長兼学校教育課長	清水　孝二
学校教育課学校支援担当主幹	前田　稔
生涯学習課長	宗像　浩
教育総務課管理係長	城取　直樹

傍聴人　２人

会議に付議した事項

（１）ゲストスピーカー講演

（２）意見交換

（３）その他

発言の趣旨及び発言者の氏名

○篠田教育部長　ただいまから第３回吉川市総合教育会議を開催いたします。はじめに、傍聴人に入っていただきます。傍聴人の方はいらっしゃいますか。

［「傍聴人がいます」との報告あり］

それでは、傍聴人を入場させてください。

［傍聴人入場］

議事に入ります前に、傍聴される方に傍聴上の注意を申し上げます。先ほど受付でお配りいたしました傍聴要領をよくお読みいただいて、遵守していただきたいと存じます。また、傍聴要領に反する行為をした場合には退場していただくことになりますので、ご注意ください。

○篠田教育部長　次に、本日の会議録の署名委員を決めたいと存じます。「吉川市総合教育会議運営要綱第５条第３項」の規定により、山田教育長職務代理者、関根委員にお願いしたいと存じますが、よろしいでしょうか。

［「了解」という声あり］

○篠田教育部長　では、お二人に署名委員をお願いいたします。

本日の会議は、ゲストスピーカーによる講演及び意見交換を行います。講師につきましては、立志教育ネットワーク代表及び「志授業」提唱者の角田識之（すみだのりゆき）様をお招きしております。角田様には、大変お忙しい中ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

次に、本日の進行についてでございますが、はじめに角田様から次第の演題にございます、「小中学生の立志が日本の希望となる日～『志授業』普及の８年間に確信したこと～」について、ご講演をいただいた後に、角田様を交えて意見交換を行わせていただきます。

それでは、ここから先の進行につきましては、染谷教育長、よろしくお願いいたします。

○染谷教育長　角田様の紹介につきましては、事前に配布させていただいているプロフィールをご覧ください。本日は、角田様が全国の小中学校で行ってきた「志授業」の内容と、それを受けた子ども達の「立志発表」などについて、お話をいただきます。

それでは、角田様、よろしくお願いいたします。

平成２８年６月３０日　第３回 吉川市総合教育会議

［講演］

講師　立志教育ネットワーク代表＆「志授業」提唱者　臥龍（がりゅう）こと角田 識之　様

演題　小中学生の立志が日本の希望となる日～『志授業』普及の８年間に確信したこと～

○ 角田講師　皆さん、こんばんは。先ほどこの会議のスケジュールを確認させていただきましたが、教育大綱を策定する貴重なお時間を頂戴したということで、本日はよろしくお願いいたします。タイトルにある「８年間」というのは、本日お配りしたチラシにある、「立志教育支援フォーラム」が開催８回目を迎えることを指しています。このフォーラムは、子ども達の発表をメインに据えているものですが、活動自体は、普及の期間も含めますと、１０年以上になります。

また、もう１枚のチラシに記載されていますが、「立志教育」は、現在、岐阜・岩手・岡山・愛知・長野・鳥取で展開しています。初めの頃は、私が学校を訪問して「立志教育」を実施していましたが、本業が経営コンサルタントということもあり、時間の制約があることから、現在は、講師研修を受けた４０人ほどの方々にお願いをしています。「立志教育」を行う上で１０人規模の実行委員会を組織していますが、半数が校長などの学校関係者で、残りが経営者で構成されています。これは、子ども達が将来社会に出ていくに当たり、受け入れる側の経営者と育てる側の教育者が意見交換を行えるようにするためで、それが大きな特徴の一つになっています。

ここで、私の自己紹介をさせていただきます。教育に力を入れ始めたのは、５０歳頃でした。人生の節目ということで、作られていく人生ではなく、残していく人生が必要ではないかと考え、２１００年に生まれる子ども達に「あって良かった」と思える社会資産を６つ遺そうと考えました。そのうち、最も優先順位が高いのが「立志教育」となります。また、ワールドビジョンという活動のお手伝いを行っています。これは、親が貧しいが故に、小中学校に行けない子ども達を救う活動で、これまで世界で累計１億人の子ども達を学校に行かせることが出来ています。私が手伝いをしようと思ったきっかけは、この活動を行っているＮＧＯ団体に戦後の日本の子ども達が救われたという歴史があり、その恩返しをしようと思ったからです。現在は、親善大使としてモンゴルを支援しています。これまで２０００人以上の子ども達を学校に行かせることが出来ました。また、貧困を断ち切るため、親に対し、就職支援プログラムを行っています。ということで、私自身は、月の半分が仕事、残り半分が社会教育活動を行っているような状況です。

私が最も力を入れているのは、先ほどお話ししたとおり、「立志教育」となります。始めたきっかけは、仕事において新規採用の活動を行っている際に３つの悲劇を目にし、この状況を何とかしたいと思ったからです。３つの悲劇とは、「三年内離職」「新卒ニート」「就職失敗自殺」です。

「三年内離職」については、非常に深刻な問題となっています。大学卒で苦労して就職したにも関わらず、辞めてしまう人がとても多いです。最近は就職戦線において学生が有利になってきていますが、それでも離職率が高くなっています。景気の好不況はあまり関係がないようです。私の知り合いが就職支援活動をしている会社に勤めていて、「何故離職してしまうのか」、インタビューをしたことがあったそうです。その結果、恐ろしいことが分かりました。インタビューを受けた人たちは就職ではなく、「就社」をしていました。つまり、「友達や親戚が知っている会社に入った」ということで、内定がゴールになっているということです。そのため、入社が近づくとブルーな気持ちになり、入社してさらにブルーになり、最後は離職してしまうということでした。３年以内に離職してしまうと、プロが育ちません。「手に職を」を何とか復活できないかとこれまで考えてきました。内定者が書き込むサイトを皆さん見たことがありますか。このようなサイトを見ると、非常に悲観的な言葉が並んでいます。これは新聞の調査ですが、大学と企業が求める人材は一致しています。２位が「志」、１位が「挑戦」です。また、これらの人材を育てるためのキーワード調査結果も見事に一致しています。それは、「主体性」です。大学側にこの主体性が出来ているかと聞くと、８割が出来ていると回答していますが、企業側はそれに対して不満があり、ここでズレが生じています。社会に出ていく学生に「志」や「主体性」がない人が増えているということになります。社会に出て、自分が幸せに生きるためのコンセプトが「志」や「使命感」だと思っています。

「新卒ニート」についてですが、入社を迎える頃になると、サイトには「社畜」という言葉が目立つようになってきます。色々な働き方調査の最新版を見ると、「働かない働き方」というのが出てきます。これは何かと言うと、会社に出てこなくなった新入社員に上司が心配で電話をかけます。その多くは、親元で暮らしている男の子ですが、電話をかけると、電話口に出るのは母親で、本人が話すことはありません。彼らにとっては、働かなくても母親が食べさせてくれて、電話も代わりに出てくれます。このような状況を「働かない働き方」と言うそうです。少子化の影響なのか、最近は「男の子離れ出来ない母親」と「母親離れ出来ない男の子」が増えているように思います。日経新聞では「新卒ニート３万人」

という記事が掲載されました。これは、就職活動したけれど駄目だったではなく、最初から就職活動していないということです。少子化社会においては、彼らに働いてもらわないといけないのに、最初から社会に出ていこうとしない人が増えているという現実があります。

「就職失敗自殺」についてですが、その数が増えています。自殺してしまった人たちの共通項としては、「大人の言うことを聞く良い子」というのがあります。縛られてしまい、自分で何かをする力がなくなってしまいます。その結果、親の期待に応えられず、死を選んでしまうということです。つまり、自分で意思決定をしたことがない子ども達が増えているということです。就職ではなく就社、親離れ出来ない、大人の言うことを聞く良い子。これらは全て意思決定が出来ないことに繋がり、これを一言に集約すると、「意思決定を知らない」ということになります。

私の「志授業」は、２０年近く前から取り組んでいますが、２００８年に岐阜の小学校で「志授業」を再開し、それが口コミで広まって、現在の活動に繋がっています。小学校では９０分の「志授業」を行っていますが、子ども達は集中して最後まで聞いてくれます。私が出前講師として授業を行い、その後は担任の先生に引き継いでもらっています。子ども達には「お役立ち山」と「夢作文」という宿題を出し、３学期に親の前で発表してもらっています。岐阜では、それを小中一貫で行っています。現在の「志授業」のやり方については、子ども達の発表の場である「立志教育支援フォーラム」と先生たちの研修の場である「志授業実践研修会」の２つで構成されています。子ども達に出す宿題は、「皆さんが大人になった時、世界一幸せな国日本を作って、次の世代の子ども達にどう託していくのか」を考えてもらっています。授業では、副読本を使用していますが、その中に「お役立ち山」と「夢作文」を２回書くようになっています。これは、小学校と中学校で２回書くようにしているためです。なお、授業の対象学年は、小学校が５・６年生、中学校が１・２年生となっています。小学校４年生以下では、感性は高いのですが、社会概念を理解することが難しく、中学校３年生は目の前に受験が控えているため、このような対象にしています。高校や専門学校、大学でも「志授業」を実施したことがありますが、一番書ける時期がこの小学校５年生から中学校２年生までの４年間だと思います。

「お役立ち山」については、子ども達に自分の得意なことで社会に出て、日本を幸せにするイメージを持ってもらうために作成しました。お役立ちとしたのは、社会に出て役に立つことで、「ありがとう」と言ってもらえるようにしようという意味が込められています。

一つの「お役立ち山」を登ったら、次の「お役立ち山」に登り、「お役立ち山脈」を作っていこうと子ども達に教えています。

山を登っていると、様々な困難に出会います。その時に未来の自分に送るために書いてもらっているのが「夢作文」です。そもそも何のために自分はこの「お役立ち山」を作ったのか、初心に返ってもらって、自分にパワーを与えるものとして作ってもらいます。この活動は２００９年に１回目を行いました。これからその様子を動画で見てもらいます(動画上映)。「お役立ち山」を小学生が書くと、意外にも６０歳くらいまで描ける力があることが分かっています。

「志授業」は、自分の人生は自分で決め、そのスタートラインに立つキャリア教育として位置付けています。子ども達には、「夢・目標は自分から湧き出る主体のもの、志や使命感は時代や社会の希望に応えて行うもの」と教えています。夢や目標は引っ込めてしまいがちですが、志や使命感はやらざるを得ないもので、やれば、「ありがとう」と言ってもらえるため、辞められなくなってきます。ここら辺が、「三年内離職」を解決する一つの鍵になってくると思います。「立志教育支援フォーラム」でも夢や目標ではなく、志や使命感を発表してもらっています。若者たちが、自分のことや目の前のことだけではなく、未来のことを考えるようになって欲しいと思います。夢や目標は、達成したらそこで終わりですが、「志」や「使命感」は次の者にバトンタッチ出来ます。教材の副読本は基本共通ですが、唯一違うのが、地元の偉人のページがあるということです。子ども達にアンケートをとると、自分が住んでいる地域の偉人にとても関心があることが伺えます。つまり、子ども達は本物が分かる力があるということです。

ある調査では、高校生の声として、「のんびり暮らしたい」が１位だったそうです。しかし、現実に高校生が歩く道は、のんびりとしたものではありません。私たち大人が歩んできた道とは全く違う道が待っています。つまり、過去の定石が通用しない新しい道です。人口が減っていく中で、背負うものが多くある時代です。子ども達が一騎当千になって背負って貰わなければいけません。ピンチの時こそ自分の出番があると考える若者たちを育てていかなければいけないと思います。「何のために学び」、「何のために体を鍛え」、「何のために心を磨くのか」。それは自分の志を遂げるためです。この「知育・体育・徳育」の中にある「志育（しいく）」を大切にしなければいけません。子ども達には、何のために学んでいるのかを早目に教えてあげないと、出口が見えなくなってしまいます。

今の時代は、産業革命からＡＩ革命に移行していますが、その中で、消えてしまう職業

が出てきます。アメリカの調査によると、約半分の職業が無くなると出ています。日本もアメリカと構造は同じですから、今後、大きく変わるかもしれません。しかし、無くならない職業もあります。それは、人の手がないと出来ない職業です。私は、日本は少子社会に進むけれども、ＡＩ革命を上手く活用することが出来れば、まだまだチャンスがあると思います。人間でなければ出来ない「リーダーシップ」、「イマジネーション」、「ホスピタリティ」などを発揮できる人材を育てることで、人間力とＡＩ力の相乗効果を図っていかなければいけないと思います。しかし、今の大学生や高校生は社会の入口で中々働く意味を見出すことが出来ていません。自己肯定感が低い子どもが多いように感じます。

「志授業」を受けた子どもの特徴としては、親から言われなくても自分で勉強していることです。それは、自分が登りたい山が見つかっているからです。勉強しろと言われないとやらない子どもは、自分が登りたい山を見つけられていないと思います。私は、小さくても子ども達に自分で意思決定する力を与え、送り出してあげることが、今後の社会にとってとても大切なことであると思います。「立志教育」は、ゼロを１にし、１を１０に積み上げることが出来るものです。現在展開している地域がモデル事業となり、全国に展開していくことによって、子ども達がその地域の財産となっていくと良いと思います。

以上、私が８年間かけて走り続けて感じたことをお話しさせていただきました。どうもありがとうございました。

〔意見交換〕

○西山委員　意思決定できない子ども達に教えることは、家庭の役目なのでしょうか。それとも学校や地域の役目なのでしょうか。

○角田講師　本当は最初の役目は家庭だと思います。理想は、学校で「立志教育」をやる時に両親も一緒に聞いてもらうのが一番良いですが、残念ながら親の参加の９割は母親です。一番良いのは家庭と学校の両輪で行うことだと思います。授業を受けた子ども達から多く聞く声は、「親に夢を語ったら、否定されてしまった。」ということです。親も現実を考え、愛情の一環で言っているのだと思いますが、子どもが描く夢は変わっていきます。子どもの夢を描く力を大人が削らないようにして欲しいと思います。夢を描く力を削られてしまった子どもは、その後夢を描けなくなってしまいます。親には子どもに出来る、出来ないの話をするのではなく、子どもとキャッチボールをするように伝えています。

○山田委員　角田先生のプロフィールを見ると、「坂の上の雲」の故郷、愛媛県松山市と書

いてありますが、明治時代の人たちは、「国や社会のために何とかしよう」と考えていた人たちが多くいたように感じますが、今の人たちは「やってくれるのではないか」と受け身で考える人が多いように感じます。昔、「指示待ち族」という言葉がありましたが、まだまだそれが抜け切っていないと思います。学校の授業においても、「まだ教わっていないから分からない。」という子どもが多いです。自分で調べる、前に向かっていく気持ちが弱いと思います。これからは問題を探して、仮説や予想を立て、それを調べるための方法を考える子どもが増えなければいけないと思います。角田先生の話を聞いて、目的意識をしっかり持つことが大切であることを再確認させていただきました。

○角田講師　子ども達を取り巻く環境も複雑化していると思います。子どもを作っていくのは環境であると思いますが、西暦２０００年前にこれまでの時代を支えてきた骨太の人たちが亡くなられています。この方たちが受けた教育と今の子ども達が受けている教育の大きな違いは、「どう生きるか」「リーダーとは何か」という教育を今の子ども達は受けていないということです。吸収できる小中学生にそのような教育がされていないと思います。

○山田委員　学習指導要領では、選択学習をしなさいと書いてあります。また、自分の将来を考えて学習を結び付けていきなさいとも言っていますが、現場でどこまで実践出来ているのかは疑問に思います。

○神田委員　角田先生の話を聞いて、私も教員でしたが、子ども達に「これ、やってみようよ」「これが出来てすごいね」と言うと、「僕なんて駄目だから」と自己肯定感が非常に低い答えが返ってきたことを思い出しました。さらに、自分は人のためになっているという自己有用感の低い子どもも多かったと思います。このような子ども達に自信を持って貰うためには、どうすればいいのかを教員時代に考えていました。子ども達を褒めて、やる気を引き出してあげることが親や教員の役目なのだと思います。角田先生が行う「立志教育」の授業をぜひ見せていただきたいと思いました。

○角田講師　今の日本の子どもは、海外と比べるとかなり褒められていないと思います。

○関根委員　夢を見る子どもを家庭で育てていかなければいけないはずなのに、逆に子どもの夢を削っているということがとてもショックでした。また、これからは親と子どものキャッチボールの仕方を考えなければいけないと思いました。

○角田講師　今問題になっているのは、就職内定をたくさんもらっている学生がノイローゼになってしまっていることです。それは何故かというと、優秀な子どもほど、どの会社に行っていいのか分からなくなっているからです。選べる会社がたくさんあるのに選ぶこ

とが出来ずに内定をすべて断ってしまうような現象が起きています。つまりそれは、意思決定を知らないということだと思います。

○関根委員　子ども達は就職活動の際に自分を否定されるようなことをたくさん言われて苦労しているようです。就職活動を重ねていく中で、子ども達が社会の厳しさを学び、成長していきますが、精神的にはかなり辛いと思います。

○角田講師　「会社は選べても上司、仕事、お客様は選べない」という話を聞きます。仕事を自分の天職だと思うように教えていかないと、これからも「思っていたものと違ったから辞める」という子どもがたくさん出てくると思います。

○中原市長　「知育・徳育・体育」、そしてその真ん中にある「志育」については、角田先生が仰るとおりだと思いました。角田先生に「志教育」を行っていただければ、志の種を捲くことが出来ると思いますが、吉川市の場合は小学校が８校、中学校が３校あります。角田先生にすべての学校で授業していただくことは可能なのでしょうか。

○角田講師　私以外にも講師認定を受けた者がいますので、同じレベルで授業をすることが可能です。

○中原市長　種を捲いた後は、それを育てていかなければいけません。その継続していく部分はどのようにしているのでしょうか。

○角田講師　これまでの実績を映像やデータで残してあるので、それを校長先生などに観ていただき、吉川ではどのような形で継続していくのかを決めて貰えればいいと思います。

○中原市長　小学校５・６年生、中学校１・２年生に授業を行う場合、担任数が相当数いることになります。その全員が「志授業」を共通理解として把握していかなければいけませんが、先生には研修だけで足りるのでしょうか。先生が腑に落ちていないと、「志授業」をやっても子ども達には響かないと思います。

○角田講師　一番大きな存在は校長先生だと思います。校長先生に理解してもらうことが重要です。先生にも個性があり、バラつきが出ることは仕方ありませんが、それを最小限に抑えるために必要なのが、校長先生の力だと思います。校長先生の目線によって、「志教育」が浸透するかしないかが変わってくると思います。なお、先生にはコーチング研修などを受けてもらい、「お役立ち山」の探し方などを教えるためのスキルを身に付けてもらいます。

○中原市長　今年度、吉川市では教育大綱を策定することになっています。埼玉県の教育大綱を見ると、かなり内容を削ぎ落として作っていますが、吉川市の教育大綱はもっと短

く、ワンセンテンスで内容を伝える形にしたいと考えています。それは、子どもが読んだ時、大人になってもずっと覚えているようなものにしたいからです。子ども達が大人になった時に「私たちはこのような教育を受けて育った。」と言ってもらいたいからです。細かい教育内容は、毎年作成しているものがありますので、ずっと長くバトンを渡せるような言葉を子ども達に遺してあげたいと考えています。

○角田講師　それはとても大切なことだと思います。「志教育」を受けた子ども達に一番残っている言葉は何かを聞くと、「人生経営の社長」という言葉が出てきます。これは、自分の人生は自分で決めるという考え方から生まれた言葉です。この言葉が良いということではなく、これぐらい短いフレーズだと子どもの心に残ると思います。

○染谷教育長　私が今日の講演で一番印象に残ったのは、動画に出ていた子ども達の成長した姿でした。あのような子ども達を増やしていくことがとても大切であると思いました。私も教育現場にいましたが、周りに流されずに前を見ながら、全体を考えられる子どもに何人も会いました。吉川市では、青少年健全育成推進大会がありますが、そこで学校の代表として話をしてくれる子ども達と同じものを感じました。

○角田講師　先生自身の体験談を「お役立ち山」にして、子どもに話すことも大切だと思います。実体験は、子どもにとってとても身近なものになります。

○篠田教育部長　先ほどパワーポイントの中でスポーツ選手の夢作文が映し出されていましたが、例えばどのような内容なのでしょうか。

○角田講師　野球のイチロー選手やサッカーの本田選手は、小学校６年生の時に書いた作文がよく題材として使われています。二人とも６年生の時に明確な内容の作文を書いているのが特徴で、夢作文のお手本のようなものになっています。

○岡田政策室長　自分の子どもを見ていて思いますが、早いうちに志を立てて、自分の人生設計をすることが大切だと思いました。

○中原市長　志を育むための「知育・徳育・体育」という話だったと思いますが、志を持っていれば普通の授業でも育まれるものなのか、それとも志を育むための教育が別に必要なのか、角田先生はどのようにお考えでしょうか。

○角田講師　子ども達が主体的に捉えることが大切で、やらされ感がないような教育が必要だと思います。プログラム云々の話ではなく、志を立てることの重要性を学ぶことが大切だと思います。

○山田委員　「知育」は、単に知識を持つのではなく、その知識をどのように使うかだと

思います。その中で、「志育」が生まれるだと思いますが、この「志育」がなければ「知育」も育たないという相互関係にあるものだと思います。

○角田講師　その通りだと思います。何をやるにしても基礎学力が大切です。ただし、「知育」を背負っていても登る志が何もないのでは困ってしまいますので、「知育」と「志育」は相互関係でなくてはいけないと思います。そういう意味でも、小学校５・６年生が最も「志授業」を行うタイミングが良い時期だと思います。

○中原市長　教育大綱は経営の視点からも見ていきたいと考えていますので、次のゲストスピーカーは、経営分野の方からお話を聞きたいと思います。

○染谷教育長　予定していた時間がまいりました。本日、角田様からいただいたお話しや意見交換の内容につきましては、今後の吉川市教育大綱の策定において、活用させていただきたいと思います。角田様、貴重なお話をいただき、ありがとうございました。それでは、その他として、事務局からお願いします。

〔その他〕

○戸張副部長兼教育総務課長　平成２８年度の総合教育会議開催予定についてご説明いたします。今年度につきましては、本日を含め、５回の会議開催を予定しています。今後の開催予定につきましては、事前に配布している年間開催予定をご覧いただければと思います。次回の総合教育会議につきましては、本日と同様、ゲストスピーカーをお招きし、講演及び意見交換を行いたいと考えています。なお、日程につきましては、現在講師と調整中ですが、８月２５日木曜日、午後５時から開催させていただく予定です。

○篠田教育部長　以上をもちまして、第３回吉川市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。

（閉会　午後６時３０分）

吉川市総合教育会議要綱第５条第３項の規定により署名する。

平成２８年７月２８日

教育委員会教育長職務代理者　山田　陽一

平成２８年７月２８日

教育委員　関根　二三代